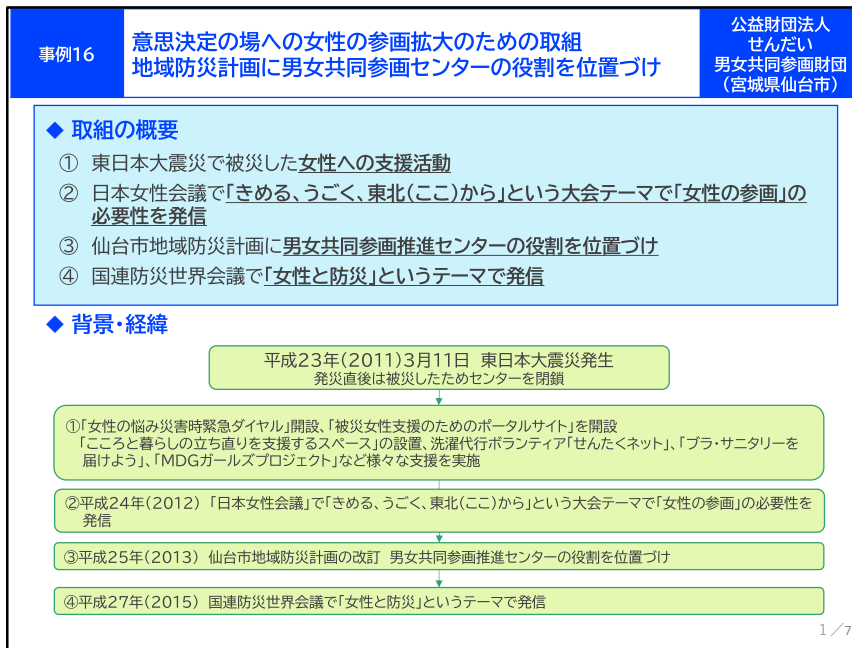




東日本大震災の経験をもとに、意思決定の場への女性の参画拡大のための取組と、地域防災計画に男女共同参画センターの役割を位置づけた事例です。

仙台市の男女共同参画推進センター(エル・パーク仙台とエル・ソーラ仙台)※を管理・運営している、せんだい男女共同参画財団では、平成23年(2011)3月11日の東日本大震災発生を契機に様々な取組がスタートしました。

※エル・パーク仙台とエル・ソーラ仙台は、2館で一つの「仙台市男女共同参画推進センター」。このセンターを指定管理者として運営しているのが、「公益財団法人せんだい男女共同参画財団」で、男女共同参画の専管財団として、仙台市の男女共同参画推進を、ハードとソフトの両面から担っている。

まず、取組の概要を説明します。

【ポイント】

- ① 東日本大震災で被災した女性への支援活動を実施
- ② 日本女性会議で「きめる、うごく、東北(ここ)から」という大会テーマで女性の参画の必要性について発信
- ③ 仙台市地域防災計画に男女共同参画推進センターの役割を位置づけ
- ④ 国連防災世界会議で「女性と防災」というテーマで発信

次に、取組の背景・経緯について説明します。

【背景・経緯】

〔発災直後〕

「エル・パーク仙台」は、地震の揺れによるスプリンクラーの破損で6階は水浸し、5階にも漏水しました。設備の一部が損傷したほか、壁面に多数の亀裂が入りました。「エル・ソーラ仙台」は、揺れは非常に大きかったものの、建物自体への被害は幸い大きくありませんでした。それでも室内間仕切りや移動書架の一部が倒壊し、約2万冊の図書が書架から落下して床に散乱。両館とも、利用者、スタッフは全員無事でしたが、仙台市内の他の公共施設同様、翌日から休館することになりました。

職員は、仙台市の「災害緊急ダイヤル」に応援に行っていました。

〔被災した女性への支援活動〕

男女共同参画の専管財団としてやるべきことがあるのではという意見が、震災から一週間後の会議で職員から出ました。まずは相談窓口を立ち上げ、並行してHP上でさまざまな情報提供をやり、災害前に実施していた自主事業を震災対応の事業へと変えていきました。

既に個人的に活動を始めて動き出している方たちや市民グループの女性たちがいたので、そういう人たちから状況を聞きつつ、求められている物があれば、調達して持って行ってもらうといった活動を始めました。

その後、「こころと暮らしの立ち直りを支援するスペース」の設置、「洗濯代行ボランティア」、「ブラ・サニタリーを届けよう」、「MDGガールズプロジェクト」など様々な支援を実施しました。震災後半年ぐらいはそういう

活動をやっていました。

〔女性の参画拡大に向けた発信〕

平成23年(2011)の夏頃からは、平成24年(2012)に実施する「日本女性会議」の準備が始まりました。震災で見えてきた、女性たちがもっと声を出さなくてはならない、意思決定の場にもっと女性たちが参画しなくてはならない、女性たちはただ我慢するのではなく、社会に対して発言する権利も、行動する責任もあるということを、もっと強く言わなければとの思いを強くし、「あらゆる意思決定の場への女性の参画拡大」の発信に財団として力を入れ始めました。

〔仙台市地域防災計画が改訂〕

震災後、早い段階で仙台市が地域防災計画を改訂し、男女共同参画推進センターの役割が位置付けられました。また仙台市防災会議の委員の補佐をする幹事に、「委員の属する機関の職員」※として、せんだい男女共同参画財団の職員も入りました。(※当時、同財団理事長であった木須八重子氏が防災会議の委員を務めていた)

〔国連防災世界会議〕

「国連防災世界会議」は、世界各国の代表が国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議です。平成27年(2015)の第3回会議は、東日本大震災の被災地である仙台をメイン会場に開催され、本会議のほか、一般の方が参加できるパブリック・フォーラムが多数行われました。このパブリック・フォーラムにおいて、エル・パーク仙台が「女性と防災」に関するテーマ館となりました。

事例16	意思決定の場への女性の参画拡大のための取組 地域防災計画に男女共同参画センターの役割を位置づけ	公益財団法人 せんだい 男女共同参画財団 (宮城県仙台市)
◆ 取組内容 ① 東日本大震災で被災した女性への支援活動 災害時に顕著に現れるジェンダー問題に女性のエンパワーメントの視点から取り組んだ 支援活動の内容 - 平成23年(2011)3月29日「女性の悩み災害時緊急ダイヤル」開設(7月23日まで) - 同年 4月3日「被災女性支援のためのポータルサイト」を開設 - 同年 4月5日「こころと暮らしの立ち直りを支援するスペース」としてエル・ソーラ仙台(29階)を開放 - 同年 4月上旬「せんたくネット」活動開始 - 洗濯代行事業(4月17日から8月10日まで) - ブラ・サニタリーを届けよう(5月下旬から6月17日まで) - 同年 6月上旬 MDGガールズプロジェクト～女子による女子のための震災ピアサポート始動 【活動の詳細】 せんだい男女共同参画財団HP : https://www.sendai-ljp/jbf/support/   「こころと暮らしの立ち直りを支援するスペース」での情報提供  「せんたくネット」でボランティアに渡す洗たくもの  「MDGガールズプロジェクト」手作りコーナー 2/7		

せんだい男女共同参画財団がエル・ソーラ仙台とエル・パーク仙台でそれぞれ実施した取組について説明します。

①東日本大震災での女性への支援活動

災害時に顕著に現れるジェンダー課題に女性のエンパワーメントの視点から取り組みました。

【ポイント】

[女性の悩み災害時緊急ダイヤル・被災女性支援のためのポータルサイト]

- 「女性の悩み災害時緊急ダイヤル」を立ち上げた。
- ホームページに被災女性支援のためのポータルサイトを開設。

[こころと暮らしの立ち直りを支援するスペース]

- エル・ソーラ仙台の29階を、「こころと暮らしの立ち直りを支援するスペース」として開放。
- エル・パーク仙台では、再開後、利用者にメッセージカードを渡したり、自分の気持ちをカードに書いて貼る「つながる掲示板」を設置。
- 市民向け講座を、こころのケアなど震災に対応した内容に組み替えて開催。
- お茶を飲みながらちょっと一息つきませんか？というコンセプトで、カフェ事業も展開。

[せんたくネット]

- 市内で女性支援の活動をしている女性たちやNPOの方たちと「せんたくネット」という中間支援のゆるいネットワークを立ち上げ、女性のニーズを聞き取り支援した。

[MDGガールズプロジェクト～女子による女子のための震災ピアサポート]

- 被災地外の同世代の女子から、仙台市の10代の女子たちに、「自分がもらったらうれしいもの」を贈ってもらう企画を実施。

【取組】

[女性の悩み災害時緊急ダイヤル・被災女性支援のためのポータルサイト]

- 当初は、男女共同参画の視点からというよりも、声に出ない女性たちの声を拾うこと、こういうことを声に出してもいいのだと声を出せずにいる人たちに思ってもらうために、電話相談を行いました。「我慢できることだから言わないでおこう」という声を拾い上げ、そういう人たちが家や地域から少し離れてほっとできる場をつくるといった形で、少しずつ事業化していきました。
- ホームページでは、財団が取り組んでいる女性支援の情報や、なかなか表に出ない女性の声などを発信しました。

[こころと暮らしの立ち直りを支援するスペース]

- 人が集まり話せる場所、ほっとできる場所にしようという目的で、「苦しさを抱えているのは自分だけではない」「誰かとつながっている」と感じてもらえる空間づくりをしました。
- また、仮設住宅など、生活の場や地域コミュニティを離れ、周りに気兼ねなく安心して自分の感情を出せる場を提供しました。困難な生活を強いられている方々や、大きな被害を受けていなくても、いろいろな思いを抱えて生活している方々に寄り添う支援を行いました。

[せんたくネット]

- 「せんたくネット」とは、「せん」だいの女性たちが被災した女性の本音を「たく」さんくみとして、一緒に解決する「ネット」ワーク。誰もが被災し傷つきを抱える中、女性が支援を「する」側に立ち、復興の担い手となることでのエンパワメントをめざす活動でもありました。
- 当初、仙台市内の避難所は主に小中学校に開設され、洗濯機が無く、男女別の物干し場もありませんでした。女性は家族のことを優先して自分のことは後回しにしがち。女性が女性の洗濯をする、ということをお伝えすれば、安心して自分自身の洗濯物を預けられると考え、洗濯代行サービスをはじめました。
- 洗濯代行で訪れた避難所で聞いた、「自分に合うサイズの下着がない、サニタリーショーツは全くない」という声から「ブラ・サニタリーを届けよう！」を企画しました。全国から、自分のものを買うつもりで一枚一枚選んでくれた下着が、約2,300枚も寄せられました。

[MDGガールズプロジェクト～女子による女子のための震災ピアサポート]

- 大人の女性と子どものはざまで、中高生に必要な支援が届いていないのでは？という思いから、立ち上げました。「物資ではなくプレゼント」を募り、全国の200人以上からプレゼントが寄せられました。これらのプレゼントは、「ティーンズの女子会」※で自由に選んでもらいました。

※「ティーンズの女子会」とは、宮城学院女子大学(M)とドレメファッション芸術専門学校(D)の学生が被災地の10代の女の子たち(ガールズ、G)を元気づけるために開催したイベント。手芸やメイク、カフェコーナーやファッションショーも実施しました。

【参考】

[当時の経験を振り返って]

- 当時は、その都度やるべきことを考えてやってきましたが、災害発災時には何をどうするのかが一程度決まっているほうがよいです。震災当時はかなり動揺し、頭が働きませんでした。経験したことのない事態で、それまでの経験が役に立たない。何をどうしていいのか考える力も弱っている。そういうときには、最初の一步はここに足を出せと決まっているものがあれば動けます。まずは自分たちの安否確認から始まりますが、動き方が決まっているとよいし、マニュアルも必要です。
- 全国にある男女共同参画センターや外部の方々からの支援がいろんな形で入りますが、それらを受け止めるほどの体力が被災地のセンターにはありません。そのため、日頃から受援力を持つ必要がありますが、その一方で、受け取りやすいパスを回す仕組みがほしいと強く思います。例えば、コーディネートしてくれる仕組みがあるとよいと思います。

写真出典：内閣府男女共同参画局「災害時における男女共同参画センターの役割調査報告書(2012年3月)」

事例16

**意思決定の場への女性の参画拡大のための取組
地域防災計画に男女共同参画センターの役割を位置づけ**

公益財団法人
せんだい
男女共同参画財団
(宮城県仙台市)

◆ 取組内容

② 日本女性会議で「きめる、うごく、東北(ここ)から」という大会テーマで「女性の参画」の必要性を発信

東日本大震災から1年7か月後の2012年10月、「日本女性会議2012仙台」を開催
会議の成果を「仙台宣言」にまとめ、「女性たちには社会を変える力も責任もある」ことを、被災地から全国に発信し共有した

【大会テーマ・ロゴマーク】

復興の担い手として、女性たちが意思決定の過程に加わり、その責任とともに行動していこう、「自ら決めて、動いて、社会を変えていこう」という強い思いを込めた



「きめる、うごく、東北(ここ)から」



特別プログラム
「女性たちが語る3.11～これまでと今と」



仙台宣言

【仙台宣言(冒頭)】

日本のあり方を変えようと言われるほどの大災害を通して、私たちは、女性自身が「きめる」ことの重要性、女性自身が「うごく」ことの必要性を痛切に体験しました。

【大会の詳細】

せんだい男女共同参画財団HP：
<https://www.sendai-l.jp/jbf/jwc2012/>



3 / 7

②日本女性会議で「きめる、うごく、東北(ここ)から」という大会テーマで女性の参画拡大を発信

東日本大震災から1年7か月後の平成24年(2012)10月、「日本女性会議2012仙台」が開催されました。「震災復興に向けた女性の参画とエンパワメント」について議論を深めたこの会議には、全国から2,000人を超える参加者が集まりました。

会議の成果を「仙台宣言」にまとめ、「女性たちには社会を変える力も責任もある」ことを、被災地から全国に発信しました。

【ポイント】

[大会テーマの決定]

- 「参画とは決めて動くこと」と捉え、「きめる、うごく、東北(ここ)から」という日本女性会議の大会テーマに決まった。
- このテーマを「決める・動く」と言い切り型にしたことも含めて、女性に対しての発信。これは「仙台宣言」とも一貫している。

【取組】

[大会テーマの決定]

- 私たちせんだい男女共同参画財団は、震災以前からジェンダー課題に取り組んできたのに、震災時には女性たちがまた我慢したり、思いを口に出せませんでした。われわれはこれまで何をやってきたのだろう、という思いがありました。
- 日本女性会議で何を訴えていこうか話し合ったときに、「災害対応の体制や仕組みを変えてほしいと言うだけなら言えるが、こういう世の中にしてきた責任は女性にもあるのでは」という意見が出ました。
- そこから、「女性は弱者で要支援者」のではなく、「女性もこの世の中を変えていく、責任ある主体」だということ、その主体としての責任を果たせなくしている社会的な障害を見える化していく、といった方向に発信の方向性は変化していきました。
- その後、地域で既に活動しているたくさんの女性たちと出会い、そのような女性たちが持っている力をのびのびと発揮してもらえばいいだけだと思うようになりました。
- 力のある女性もたくさんいるのに、震災時に動けなかったという歯がゆさとかやささが職員の中で深い自戒となっていて、震災前と同じことをやっていたら間に合わないという思いがありました。

【参考】

[会議の概要]

- 期間: 2012年10月26日(金曜日)から28日(日曜日)
- 会場: 仙台国際センター
- 主催: 日本女性会議2012仙台実行委員会、仙台市、(公財)せんだい男女共同参画財団
- 特別協力: ノルウェー王国大使館 特別協賛: 株式会社資生堂

事例16

意思決定の場合の女性の参画拡大のための取組
地域防災計画に男女共同参画センターの役割を位置づけ

公益財団法人
 せんだい
 男女共同参画財団
 (宮城県仙台市)

◆ 取組内容

③ 仙台市地域防災計画に男女共同参画推進センターの役割を位置づけ

震災後の平成25年(2013)の改訂で、男女共同参画の促進が基本方針に盛り込まれた

- 基本方針に「男女共同参画の視点を取り入れた災害対策」が盛り込まれた
 (第1部 総則 第1章 計画の考え方 第3節 基本理念及び基本方針 2. 基本方針 (3))
- 仙台市男女共同参画推進センター内に、女性支援センターの設置が明記された
 ([地震・津波対策編・風水害等災害対策編] 第1章 自助・共助 第9節 広聴相談を利用する【参考】市の取り組み)

参考: 仙台市地域防災計画(令和2年(2021)4月)

女性支援センター運用の図上訓練を年1回実施

【仙台市地域防災計画】

仙台市HP:
<http://www.city.sendai.jp/kekaku/kurashi/anzen/saigaitaisaku/torikumi/kekaku/bosai.html>

- ・ 電話・FAX・サイボウズ等で情報共有しながら進める
- ・ 災害発生～発災後3か月程度(女性支援センター閉鎖)をシミュレーション
- ・ 男女共同参画推進センターと仙台市男女共同参画課が参加

〔令和3年の訓練想定〕

- ・ 仙台市内では震度6強を観測した
- ・ 発災は平日・開館日の15:00
- ・ 通信回線は正常に機能しているものとする

図上訓練の流れ

4 / 7

③仙台市地域防災計画に男女共同参画推進センターの役割を位置づけた
 平成25年(2013)の改訂で、男女共同参画の促進が基本方針に盛り込まれました。

【ポイント】

- 基本方針に「男女共同参画の視点を取り入れた災害対策」が盛り込まれた(第1部 総則 第1章 計画の考え方 第3節 基本理念及び基本方針 2. 基本方針 (3))
- 仙台市男女共同参画推進センター内に、女性支援センターの設置が明記された([地震・津波対策編・風水害等災害対策編] 第1章 自助・共助 第9節 広聴相談を利用する【参考】市の取り組み)
- 仙台市女性支援センターを設置するための図上訓練を年1回実施。
- 財団と市役所双方の女性管理職たちが情報交換をする場もつづっている。

【取組】

[東日本大震災時の仙台市の状況]

- 震災当時の地域防災計画には、男女共同参画推進センターの役割は位置づけられていませんでした。男女共同参画課自体も、市民局の一課として市民広報対応になっており、市民からの電話相談や問合せ(ライフラインの復旧予定や、どこに逃げたらいいんだといった市民への対応)を行うという位置づけでした。
- 財団職員も、「災害緊急ダイヤル」への応援要請を受けていました。

[地域防災計画の改訂時に男女共同参画推進センターを位置づけた経緯]

- 当時の市長(奥山恵美子氏)が、災害時には女性が困難に遭うことを痛いほど分かっていたので、トップの力が大変大きいと思います。
- 阪神・淡路大震災や、その後の新潟県中越地震などでの被災地からのメッセージや情報を通じ、災害時に女性が困難に遭うことは分かっていたんですが、仙台市としては男女共同参画の視点を災害対応には導入できていませんでした。市長も、男女共同参画を長くやってきた人ですから、そのことはよく分かっていました。
- 防災担当の男性幹部たちもこのトップの意向と、仙台市が災害対応の体制を整えなければならないことは、分かっていました。地域防災計画を改訂するにあたり、やはり男女共同参画の視点を入れていかなければならない、ということで、改訂に至りました。
- 現場で、女性の着替えや着るものもない、化粧品もない、女は飯を炊けのような話は、200カ所以上できた避難所の中で起こってしまう。女性たちが我慢しなくてはならないとか、髪を洗いたいけどどこで洗ったらいいんだろう、水を使っていいますか、という悩みが普通に起こってしまう。災害時だからお互いに我慢しなくてはならないことがたくさんありますが、女性であるがゆえ、声に出さず我慢しているという状況が、早々に散見されました。
- だからこそ地域防災計画に書き込むことが大事です。計画に書いておけば、職員に男女共同参画に理解がなくても、計画に書いてあるから男女共同参画推進センターの職員が避難所に女性のニーズを聞きに入っていっていいと言えます。書いていなければ、ニーズを聞きにセンターの職員が避難所に行こうと思っても、そう簡単に避難所には入れません。

- 現在は、男女共同参画推進センターの職員が堂々と避難所に入り、女性の声を聞くことができ、女性のニーズを対策本部に伝えられる仕組みができています。この仕組みをつくれれば行政は動く。だからそれを早くつくろうと市長も考え、私たちせんだい男女共同参画財団としても歓迎しました。
- 平成22年(2010)4月から平成24年(2012)3月まで仙台市宮城野区長として、震災当時、災害対策本部長を務めた木須八重子氏が仙台市の防災会議委員でした。その後せんだい男女共同参画財団理事長(～令和2年)に就任しましたが、引き続き防災会議委員を務めました。その委員の補佐をする幹事に、せんだい男女共同参画財団の職員も委嘱されました。
- 加えて、市長の強いリーダーシップの下、平成27年(2015)に仙台で開催される国連防災世界会議において、女性と防災、市民協働と防災を打ち出していく方針が決まっていきました。

[女性支援センター運用の図上訓練を年1回実施]

- その都度振り返りや改善提案をしています。
- 担当する職員たちがそれぞれにグループウェアで進行状況をチェックし、職員の当事者意識が確認できる機会になっています。こういう訓練を積み重ねることが大事です。
- 震災を経験した職員もだんだん少なくなってきたことを実感します。訓練をやりながら、「発災直後ってこんな状態に私たちもなるんだよね」「あのときこうだったよね」ということを振り返りながら、「ここにどう連絡するとかしないとかやってる間も、ずっと余震はきているわけだよね」とか、そんなことを経験した職員が新しい職員たちに話しながら実施しています。

[市との連携]

- 避難所づくりワークショップを平成25年(2013)ぐらい(トル)から実施しており、研修を受講する人たちの女性枠を増やすことにも、働きかけをしました。
- 仙台市の危機管理室が主管するSBL(仙台市地域防災リーダー)のバックアップ講習会に、財団が避難所づくりワークショップを出前研修として入れさせてもらうのに2～3年かかりました。
- 行政内部で女性職員が育っていくことがとても大事だと思います。とにかくアプローチし続け、発信し続け、行政の中に理解者(男性の理解者も含め)を増やしていくしかないと思います。
- 仙台市も決して全てがうまくいっているわけではありません。突破するための地道な働き掛けを諦めずに、断られても続けることが必要です。

【参考】

[男女共同参画課や男女共同参画推進センターの活用]

- 地域防災計画に男女共同参画を位置づけたからといって、1万人の仙台市職員がすぐに理解するはずありません。その専門家は男女共同参画推進センターにいます。
- 行政の職員全員が男女共同参画を理解する必要が最優先なのではなく、分かっている人がそれぞれの専門分野で動ける仕組みを作る方が大事です。男女共同参画の視点に関しては、行政の担当部署、もしくは全国に300以上もある男女共同参画推進センターの人たちが力を貸してくれたらいい。その人たちが動きやすい仕組みが各地域にできていれば災害時に貢献できるのではないのでしょうか。

事例16

**意思決定の場への女性の参画拡大のための取組
地域防災計画に男女共同参画センターの役割を位置づけ**

公益財団法人
せんだい
男女共同参画財団
(宮城県仙台市)

◆ **取組内容**

④ **国連防災世界会議で「女性と防災」というテーマで発信**

平成27年(2015) 第3回国連防災世界会議のパブリック・フォーラムで、エル・パーク仙台が「女性と防災」に関するテーマ館となった

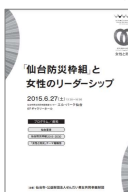
- ・ 防災・復興と男女共同参画をテーマとした14のシンポジウムや展示等の関連企画を5日間(2015. 3.14~18)にわたって展開。
- ・ 被災地仙台・東北・日本・世界の女性たちによる災害に強いまちづくりに向けた取り組みを、様々な切り口から発信するとともに、東日本大震災で直面したジェンダーに起因する課題の解決に向けて、多様な側面から議論を深めた。

「女性と防災」テーマ館 当日プログラム▶



フォローアップ事業

国連防災世界会議の成果を継承し、「防災環境都市・仙台」を支える女性の人材育成やリーダーシップ定着に向けた事業に取り組んでいる



仙台防災未来フォーラム
2016 テーマセッションD
トーク×トーク 女性たちの
リーダーシップ2016▶



【パブリック・フォーラムの詳細】
せんだい男女共同参画財団HP：
<https://www.sendai-l.jp/bf/about/>



フォローアップイベント
『『仙台防災枠組』と女性のリーダーシップ』

5 / 7

④国連防災世界会議で「女性と防災」というテーマで発信

第3回国連防災世界会議のパブリック・フォーラムにおいて、エル・パーク仙台が「女性と防災」に関するテーマ館となりました。

【ポイント】

- ・ 国連防災世界会議のパブリック・フォーラムで、防災・復興と男女共同参画をテーマとした14のシンポジウムや展示等の関連企画を5日間にわたって展開。
- ・ 国連防災世界会議では、これからの防災・減災の行動指針となる「仙台防災枠組2015-2030」が採択され、これまで災害弱者とされていた女性について、防災・減災の「推進主体」としての役割や、女性のリーダーシップ促進の必要性が明記された。
- ・ フォローアップ事業として、女性の人材育成やリーダーシップ定着に向けた事業に取り組んだ。

【取組】

[国連防災世界会議 パブリック・フォーラム]

- ・ 被災地の女性たちによる災害に強いまちづくりに向けた取組をさまざまな切り口から発信するとともに、東日本大震災で直面したジェンダーに起因する課題の解決に向けて、議論を深めました。

[フォローアップ事業]

- ・ 平成27年(2015)6月27日、第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム「女性と防災」テーマ館フォローアップイベント、「『仙台防災枠組』と女性のリーダーシップ」を開催しました。
- ・ 1年後にはこれからのまちづくりにおいて、女性がさらにリーダーシップを発揮するためにはどうすればよいかを考えるため、「仙台防災未来フォーラム2016ー国連防災世界会議から1年 仙台・東北から防災・減災の未来に貢献するー」を開催しました。
- ・ その後も2017、2019と世界防災フォーラム/防災ダボス会議にて「防災まちづくりと女性のリーダーシップ」をテーマとしたセッションを持っています。

【参考】

[国連防災世界会議 「女性と防災」に関するテーマ館]

- ・ 期間:2015年3月14日(土曜日)から18日(水曜日)
- ・ 会場:仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台
- ・ 運営:仙台市、(公財)せんだい男女共同参画財団
- ・ テーマ・ロゴマーク:「想いは 立ち上がり つながり 広がる Women Can Do It!」2つの楕円のかたちは東日本大震災から生まれた女性たちの想いを種に見立てたものです。仲間とつながり、想いや活動が広がっていく様子をイメージするとともに、心の回復や復興は右肩上がりの直線ではなく、行きつ戻りつしながら、らせん状に進んでいくことも表現しました。

[仙台防災枠組2015-2030]

- ・ 仙台市HP <https://sendai-resilience.jp/sfdrr/>

5

事例16

意思決定の場合の女性の参画拡大のための取組
地域防災計画に男女共同参画センターの役割を位置づけ

公益財団法人
せんだい
男女共同参画財団
 (宮城県仙台市)

◆ 現在の活動
熊本地震時の支援活動

- 仙台市が熊本地震の避難所支援に行く際に、行政職員向けの研修資料を、男女共同参画課と男女共同参画推進センターが相談しながら作成し、研修を実施した
- 避難所は、被災した人同士が助け合う場であるからこそ安全で安心できる場にしなければならない。それを手助けに行くのがあなたがたですよ、という切り口で作成した
- 避難所運営の皆さまへのメッセージを作成し、仙台市職員が持って行った

地域版 女性リーダー育成プログラム「決める・動く」

災害に強いまちづくりのためには、平時時から女性が地域のなかでリーダーシップを発揮することが必要。仙台市と共に、女性が地域でリーダーシップを発揮できるよう力をつける研修事業を実施

- 平成28年度(2016)にスタートし、5年間実施
- 受講者それぞれが自分のリーダーシップを地域で発揮していくためのプログラム
- 被災地視察と現地女性たちとの交流も実施



【プログラム詳細】
 せんだい男女共同参画財団HP：
<https://www.sendai-l.jp/jbf/project/>



6 / 7

せんだい男女共同参画財団(エル・ソーラ仙台・エル・パーク仙台)の現在の活動です。

【ポイント】

- 仙台市が熊本地震の避難所支援に行く際に、派遣される職員を対象に男女共同参画の視点からの避難所運営について男女共同参画課が研修を実施。
- せんだい男女共同参画財団も東日本大震災時の経験談を提供するなど資料作成への協力をした。
- 仙台市と共に、女性が平常時から地域でリーダーシップを発揮できるよう力をつける研修事業に取り組んでいる。

【取組】

[応援職員への研修]

- 仙台市が避難所支援に行く際に持参する避難所運営の皆さまへのメッセージは、『安心・安全な避難所運営のために』、サブタイトルで、『多様な意見を取り入れた避難所運営のお願い』にしました。
- 避難所は男女共同参画の視点だけで見ると、DVがあったり、女性が性被害に遭ったり、のぞきに遭ったりする場ですから、それが起きないような場にしましょう、女性にとって安全な場にしましょうといったところだけを強調すると、避難している市民の人にとって避難所は怖い所になってしまいます。これでは逆効果。避難所は共助の場であり、被災した人同士が助け合う場であるからこそ、安全で安心できる場にしなければならない。それを手助けに行くのがあなたがた(派遣職員)ですよ、ということが伝えられる研修資料になるよう工夫しました。
- 本来「避難所」というのは、災害で一時期そこに寄り添って、いずれはそこから出て行く場所です。日常を取り戻すための力をもう一度取り戻すという、レジリエンスの場所でもあります。隣にいる人が痴漢だと思わせることが目的ではなく、隣にいる人は私たちと一緒に助け合って、ここをお互いが生きていく大事な場所にしていこうということを考え合う人であってほしいし、そうあるべきだという避難所の考え方の中に、男女平等の問題もあるという考え方でいてほしいと考えました。
- ひどい男性がいっぱいいるわけではない。基本は、「避難所が本来どうあるべきか」というところに立って考えることです。これを、私たち男女共同参画のプロフェッショナルが避難所の安全について語るときに忘れてはならないと思います。
- 仙台市が持って行った避難所運営の皆さまへのメッセージに書いてあることは全部、女性の話です(生理用品がないなど)。しかし、住民の命を1人でも多く守るのは、やはり行政の使命です。だから逃げられない、途中でやめたとは言えない。それは覚悟しなければならないことです。
- そういう経験を阪神・淡路大震災や東日本大震災は伝えているはず。女性の話はその中の柱の一つで、男女共同参画の視点があれば全部安心、安全かということ、そんなことはありません。

[地域版 女性リーダー育成プログラム「決める・動く」]

- 5年で100人の受講を目標に平成28年度(2016)にスタートし、令和2年度(2020)まで108名が修了しました。令和3年度(2021)も開催予定です。
- 「決める・動く」プログラムの特長
 - ・ 1.自分らしいリーダー像
 - ・ 2.マネジメントの視点
 - ・ 3.実践トレーニングと受講者同士の学び合い
 - ・ 4.被災地視察と現地女性たちとの交流
 - ・ 5.受講者同士のネットワーク
- 災害に強いまちづくりのためには、平常時から女性が地域のなかでリーダーシップを発揮することが必要です。

事例16	意思決定の場への女性の参画拡大のための取組 地域防災計画に男女共同参画センターの役割を位置づけ	公益財団法人 せんだい 男女共同参画財団 (宮城県仙台市)
◆ 取組のポイント ✓ 防災の意思決定の場に女性の参画を進めるための発信に力を入れた ✓ 地域防災計画に男女共同参画推進センターの役割を位置づけ、市と連携して訓練を実施した ✓ 災害に強いまちづくりのためには女性のリーダーシップが必要であることを世界に向けて発信した 【担当者のメッセージ】 すでに地域で力を発揮している草の根女性リーダーはたくさんいます。こちらから地域に出向くことで、彼女たちと出会うことができました。多様なフィールドをもつ女性たちから学ぶことは多いと感じます。その力を信じ、社会にもっと評価されるように見える化する、さまざまな女性リーダーが出会う場を提供する、男女共同参画センターがそのプラットフォームとなるよう、取り組みを続けます。 団体の概要 問い合わせ先 公益財団法人 せんだい男女共同参画財団 〒980-6128 仙台市青葉区中央1-3-1 AER29階 TEL : 022-212-1627 https://www.sendai-l.jp/ 		

「せんだい男女共同参画財団(エル・ソーラ仙台・エル・パーク仙台)」による男女共同参画の視点からの取組ポイントは、この3点です。

- 東日本大震災での支援活動から女性の参画の必要性を痛感し、防災の意思決定の場に女性の参画を進めるための発信に力を入れた
 - ・ 震災では女性たちがもっと声を出し、意思決定の場に女性たちが行かなくてはならない。社会に対して発言する権利も、行動する責任もあることを、発信しました。
- 地域防災計画に男女共同参画推進センターの役割を位置づけ、市と連携して訓練を実施した
 - ・ 災害対応業務での判断材料となる計画を整備することが重要と考え、市の職員との連携を構築しています。
- 災害に強いまちづくりのためには女性のリーダーシップが必要であることを世界に向けて発信した
 - ・ 災害に強いまちづくりのためには、女性がリーダーシップを発揮することが必要であることを国連防災会議において発信しました。現在、財団は仙台市と共に、平常時から女性が地域でリーダーシップを発揮できるようにするための研修事業に取り組んでいます。

【担当者のメッセージ】

すでに地域で力を発揮している草の根女性リーダーはたくさんいます。こちらから地域に出向くことで、彼女たちと出会うことができました。多様なフィールドをもつ女性たちから学ぶことは多いと感じます。その力を信じ、社会にもっと評価されるように見える化する、さまざまな女性リーダーが出会う場を提供する、男女共同参画センターがそのプラットフォームとなるよう、取組を続けます。